

令和7年度 第 5 回名護市地域公共交通協議会 議事録

日時:令和 8 年 3 月 30 日(月)10時00分より

場所:名護市民会館中ホール及び Web 会議

【報告】

(1) 令和7年度第 2 回名護市地域公共交通協議会議事録について
全員異議なし。

(2) 令和7年度第3回名護市地域公共交通協議会書面決議結果
全員異議なし。

(3) 令和7年度第3回名護市地域公共交通協議会意見聴取結果
全員異議なし。

(4) 令和7年度第4回名護市地域公共交通協議会書面決議結果
全員異議なし。

(5) 名護市コミュニティバス(なご丸)の利用状況について

<質疑応答>

番号	委員	事務局・委員回答	対応方針
(5)-1	OKICA (オキカ) の利用状況について伺いたい。 OKICA は名護バスターミナルでの販売や、郵便局でのチャージ機の設置など利用促進に力を入れている。場合によっては、名護市役所でも協力をお願いし	・資料にはないが、導入から一貫して OKICA の利用率は 10%程度であり、クレジットカード決済は 5～6%程度である。(事務局)	—

【資料 1】

	たい。(琉球バス交通 小川委員)		
(5)-2	資料 5 の P12 に運行経費が記載されているが、循環線は営業日数が同じであるにも関わらず、令和 6 年から令和 7 年で運行経費が増加した要因はなにか。 (北部観光バス 宮城委員)	・毎年、運行委託契約を締結しているが、人件費や物価の高騰に連動して経費が増加している。(事務局)	—
(5)-3	資料 5 の P13 に高校生に対するさらなる利用促進策を検討とあるが、具体的な施策は現時点であるか。バス会社としても、若年層の取り込みは関心が高い。情報共有していただければバス会社としても前向きに対応したい。(沖縄バス 稲嶺委員)	今年度のヒアリング結果等を踏まえて、今後検討していく必要があるが、通学定期券の導入、登下校の時間に合わせたダイヤの見直し、ダイヤを指定した具体的な案内などが有効ではないかと考えている。(事務局)	—

(6) コミュニティバス利用者アンケート調査結果について

< 質疑応答 >

番号	委員	事務局・委員回答	対応方針
(6)-1	資料 6 の P28、29 に記載されている「移動回数(回/月)」はどのように読めば良いか。例えば p28 では年齢ごとにサンプル数が異なると理解してよいのか。 (琉球大学 神谷委員)	よい。回答結果から月の移動回数を算出しており、回答者によって、目的ごとの移動回数も異なっている。すべて回答者の移動回数の合計を「合計(回/月)」として、目的ごとに移動割合や回数を示している。(事務局)	—

(7) 二見以北地域、羽地・屋我地地域住民ヒアリング・アンケート結果について

< 質疑応答 >

番号	委員	事務局・委員回答	対応方針
(7)-1	資料 7 の P11 に記載されている老人会が運行するバスが利用されており、コミュニティバスが利用されてい	みなで集まり同じ車両で移動するイベントとしての要素もある。加えて、住民がコミュニティバスの時刻表を把握し	—

	ないのは時刻が合わない等の理由からであるか。また、67 番は利用しにくい印象を持たれているのか。 (琉球バス交通 小川委員)	ていないため、何時の便でスーパーに行き、何時の便で帰宅すれば良いのか分かっていないというハードルもある。同じく、67 番の利用促進に向けては、利用者の目的に照らしてどのダイヤを活用すれば良いのかを示す必要があると感じている。(事務局)	
(7)-2	過去のヒアリング結果も含めて、どのように公共交通計画を策定していくかの考えはあるか。例えば、「実現すればベターな意見」と「絶対的に支援しなければならない意見」とがある中で、それらを予算と天秤にかけて、どのように取捨選択し重みづけをするかなど。例えば資料 7 の P18 に記載の「雑草問題」についても、公共交通計画だけでは対応できない。観光などの他計画と抱き合わせた形での計画策定が肝になるはず。引き続き一緒に検討させてほしい。 (琉球大学 神谷委員)	地域ごとに特徴が異なるため、どこ、誰が、どのようなことで困っているのかを地域ごとに整理して、それに即した計画をまとめていくことを想定している。(事務局)	—
(7)-3	雑草について、困っているのであれば、学校関係者から道路管理者に申し入れできないか。 (琉球バス交通 小川委員)	本件に関しては、まずは事務局から道路管理者に対して、住民からの意見があった旨を共有する。(事務局)	—
(7)-4	住民の様々な意見を聞けば聞くほど、多様であると感じた。既存インフラをつぎはぎして改良する形で毛細血管を増やすのではなく、幹線を検討した上で切るべきサービスは切るという判断も必要だと感じた。 (名護市観光協会 前田委員)	幹線や支援の整理やターゲットや目的を明確にすること、それに応じた交通手段などを整理した上で役割分担を明確にすることを想定している。(事務局)	—
(7)-5	アンケートの「デマンド交通」に対して、共通認識ない	「デマンド交通」に関してはヒアリングの際に、説明してか	—

【資料 1】

	ままアンケートに回答していないか。私は mobi を想定した。	ら回答いただいている。(事務局)	
(7)-6	公共交通においては、燃料の高騰も課題になっていることをご認識いただきたい。 (琉球バス交通 小川委員)	—	—

【議題】

- (1) 地域公共交通計画の改定方針・スケジュールについて
全員異議なしで承認。

< 質疑応答 >

番号	委員	事務局・委員回答	対応方針
(1)-1	市町村が地域公共交通としての司令塔を担えるよう各種支援をしていきたい。国土交通省としては令和 9 年度までに全国で 300 程度の優良自治体を作る方針。名護市は有力な候補になり得るため、協議会に限らず引き続き協力させていただきたい。 (沖縄総合事務局 運輸部企画室 亀谷委員)	—	—

< 事務局から連絡 >

- ・ 本日の会をもって、令和 7 年度の名護市地域公共交通協議会は閉会とする。これまでのご尽力に感謝します。次年度も引き続き本協議会へのご支援をお願いしたい。(事務局)

以上